



発行：救いの光教団
編集：神成編集室
東京都世田谷区北沢
(☎155-0031) 2-22-10
電話 代表 03(3413)0123
http://sukui.jp
毎月1回1日発行
購読料 1部80円
(会員の購読料は会費に含む)

2025
No.632
4月号

◎教団方針
信徒よ速やかに目覚めよ、
それは光を受け、邪を捨て、光を授け、
正に生きる事である

◎方針のみちしるべ
(一) みつめなおそう明主様の心
(二) つらぬきとおそう明主様の心
(三) 教団綱領を尊び実践する
(四) 信仰継承は家族と家庭円満から



御光筆 誠

引首印 明光
落款 自観
落款印 森羅万象
靈主體從
(竹筆をご使用)

『誠』

世界も、国家も、個人も、凡ゆる問題を解決する鍵は『誠』の一字である。

政治の貧困は誠が貧困だからである。物資の不足は誠が不足しているからである。

道義の頹廢も誠のない為である。秩序の紊乱も、誠のない処に発生する。

凡ゆる忌わしき問題は誠の不足が原因である。宗教も学問も芸術も、中心に誠がなければそれは形骸でしかない。

嗚呼、誠なるかな、誠なる哉。人類よ、問題解決の鍵は、ただ誠あるのみである。

— 身魂磨き —

人の罪 咎むる人こそ神よりの

尤めをかがふる人にぞありける

我身魂 磨かれんとして大神は

枉とう砥石用ひ給ふも

目に見えぬ 神の光のまざまざと

眼に映るなり魂磨きなば

神言靈

これは分かりきった話なのですが、どうも一番困るのは、いつも小乗信仰はいけないういけなうと言っているのに、どうも小乗信仰の人が多いいのです。小乗信仰にもいろいろありますが、一番よくないのは「あの人は邪神だ」とか「あそこの家には邪神がいる」とか言う事ですがこれが一番悪いのです。ですから私は「人を邪神と言う人は、その人が邪神だ」と言っておりますが、邪神である邪神でないということは、決して人間にわかるものではありません。神様以外には分か

るものではありません。それを分かつと思うのは、神様の地位を犯していることとなります。ただ自分が邪神にならないければよいので、人が邪神であろうがなかろうが、大きなお世話です。それからもう一つは、邪神を恐れる人があります。「あの人は邪神が憑いているから注意しなければならぬ」とか「あそこの家には邪神がいるから気をつけなければならぬ」と言うのが、大変な間違いです。そうすると神様の方が弱いこととなります。邪神を恐れるということは、神様を下にみることとなります。本当言えれば邪神の方で恐れるのです。それを邪神を恐れるということは、神様のほうが邪神以下ということとなります。(中略) だからいつも言うとおりの、いまままで教団でも、邪神のためにずいぶん助かったり、ずいぶんよい功績があります。だから、良い悪いは言うてかまいませんが、決めるのがいけません。なんとすれば神様というのは、やっぱり悪いほうを利用するのです。それで自分の身魂を磨くとか、偉くなるとか、そういう磨きはみんな邪神がやるのです。邪神がその人を苦しめて、それでその人は磨けるのです。だから邪神というのは善人を作る砥石みたいなものです。(中略) 昔から信仰という小乗信仰が多いので、ほとんど小乗信仰です。それで小乗信仰のために、つまらないことを心配したり、クヨクヨして地獄を作っているのです。小乗信仰というのは信仰地獄に陥るのです。天国というものは大乘です。苦しんだりいろいろすることは地獄に陥るのだから、つまり苦しまないことです。

(昭和二十八年八月十五日)



正神を敬い 祖先を尊び 恵みの光に浴くして 感謝報恩の生活を送ります (全五回)

教団綱領の学び

【第二回】祖先を尊ぶ(その一)

一、霊界はすべての活動の源泉である

霊界と現界は大変密接なつながりがあります。従いまして、霊界におられる祖霊様のお力が、私達現界にあるものの幸福ということについて絶対に必要であります。

特に、霊界には厳正な階層(天国・中有界・地獄)があり、魂がどの層に位置するかによりまして、現界に生活いたします私達の幸・不幸が決定されて、また現界での行ないいかんが階層の位置づけに反映するのと、御教示を賜っております。霊界は現界と切っても切れ

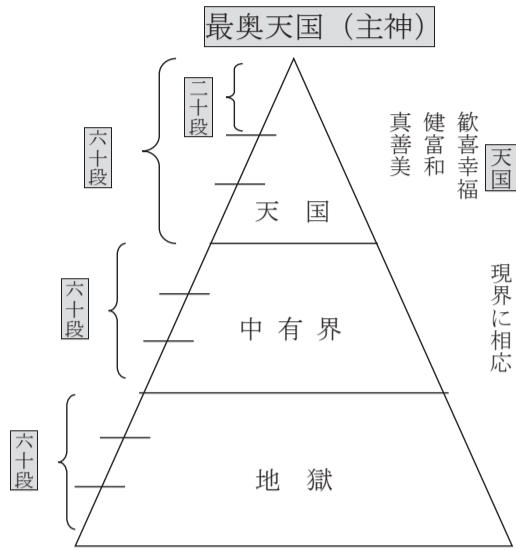
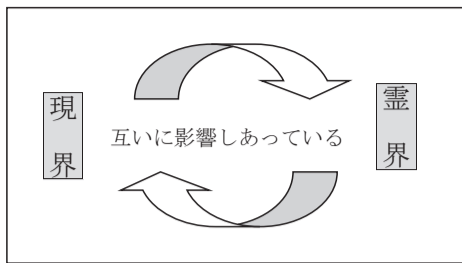
二、祖霊と私達との関係

『現界は霊界の移写であり、種々の事象は先に霊界に起る。』

【神言霊】

『現界のあらゆる事象は、霊界からの移写であると共に、現界の事象もまた霊界へ反映するのである。』

霊界の事象がまずあって、それが現界へ移写するわけですから、祖霊様の霊界でのお働きは当然現界での私達の幸せ、私達が取り組みます御用の成果として現われてきます。従いまして、私達がもしも祖霊様のことを忘れて自分達だけが幸福になろうとしても、それは無理な話でありまして誤った考え方でございます。



三、御供養の心

明主様は『幽世に います垂乳根に尽くすこそ ことなき真の孝にぞありける』と『神歌』でお示しになられ、死後の霊的孝養を尽くすことが大切であると仰せてございます。

四、死後の孝養や積徳の方がより大きな孝行となる

【神言霊】

『死後の靈魂に対し、その遺族が誠意をもって懇ろなる法要を営むとか、または遺族およびその子孫が人を助け慈悲を行い、国家社会のために尽くす等、善徳を積むことによつて、祖霊の浄化作用は促進されるのである。』

右の理によつて、親に孝を尽くすのは現世のみではなく、寧ろ死後、供養や積徳によつて霊界に於ける親に孝養を尽くす方が、より大きな孝行となるのである。世間よく「孝行をしたい時には親は無し」というが、これは全く霊界の消息を知らないからである。』

五、死後の孝養を祖霊は非常に喜ぶ

【神言霊】

『霊体の罪けがれに対し、その遺族が誠心誠意懇ろなる法要を営むとか人を助け慈悲を施し善徳を積むことによつて、それだけ霊の浄化は促進されるのである。この理によつて親に孝を尽くし、夫に貞節を捧げる等は、現世よりも寧ろ死後における方がより大きな意味となるので、慰霊祭など

は霊は非常に喜ぶのである。』 『死後の霊的孝養を尽くすことこそ大きな孝行となるのである。もちろん墓参、法事なども祖霊はすこぶる喜ばれるから、遺族または知人などでもできるだけ供養をなすべきで、これによつて霊は向上し、地獄から脱出する時期が促進されるのである。』

千手観音様 (御軸・御屏風)

『御神体』・『仰光観音御影』御奉斎の喜びというものは、私達子孫だけでなく、霊界での御先祖様達も共に、神様の光に浴びられて大変喜んでおられるのです。

『千手観音様』御奉斎についても、明主様が私達子孫の御先祖様に、神様の御光と、お救い



千手観音様 (御軸)



千手観音様 (屏風)

感謝奉告

母が久々の教会参拝。帰りに際に御神前で転倒して骨折。ご奉仕の方たちの連携で即座に救急対応。光守様の御守護願ひにより手術・リハビリを経て二ヶ月余りで退院の奇蹟に感謝!

宮澤 美保子

〈長野教会〉

私の母は、大腿骨を骨折し、手術・リハビリを経て、二カ月前での入院で家に帰ってくる事ができました。

入院中は、心配事も多くありました。また何でだろうという思いもありました。というのも、骨折したのが、教会の御神前の真ん中だったからです。祭典等で本部参拝したら、帰りにうれしい知らせが入ったとか、こんな良い事があつたというような感謝の奉告を『神成』で読んだ記憶もありますし、長野教会でも痛かった膝が治ったとか聞く事があつても、教会で、こんな

大きな怪我をした等は聞いた事がなかつたのでよっぽど我が家は、くもりが多いのかと思ひました。

思い起こすと、私たちは二月の浄霊奉仕日に行かせていただくかと思ひ、母に「行ってみる？」と聞いたところ「行ってみようか。」と言う返事でしたので、その日を楽しみにして行きました。しかし、当日は一日雨で午後からは大雨の予報でした。私は、「天気が悪いので行くのをやめた方がいいかな。」とも思ひましたが、口には出しませんでした。

「後のまつりだが行かなきゃ良かったな。前日夜、良く寝られなかつたのでやめようかな。」と思つていたそうです。それを聞いた時に、その日、参拝するように導かれたのではないかと思ひました。また、宿命と運命の違いについてどう思ひましたか。

あの日、母はご奉仕の皆さんと参拝を終えて帰ろうとして、立ち上がった時に転倒し

てしまいました。助師の宇佐美さんがすぐ浄霊をしながら支えてくれたのですが、なかなか起き上がれない様子を見て、他の方も「救急車呼んだ方がいいんじゃない。」と言ひ、それを聞いた別の方が救急車を呼び、教会の先生にも連絡を取つて下さりました。

その時の事を思ひ出すと、一人で、外に居た時、家に居た時でなく、教会で良かったのではと思ひました。

手術の際には御守護願ひをさせて頂き、本部では光守様が本部御神前で御守護願ひをして下さり、手術は順調に終える事が出来ました。

日々、相互浄霊はさせて頂いておりますが、母は久しぶりに教会へ参拝する事が出来て、しっかりと浄霊を頂き、お取次ぎさせて頂いた事、なおかつ光守様が御守護願ひして下さいました事で、寝たきりにならず、二カ月前で退院が出来たのだと思ひます。また、当日ご奉仕でみえていた同じ光導所の方が、ほかの皆

さんにも想念浄霊をして頂くように連絡を入れてくれたようです。本当に感謝しております。大光明、明主様、厚き御守護を賜り、感謝申し上げます。光守様、深いお祈りを賜りありがとうございます。

(令和六年五月)

様々な節目の年。常駐教師不在の中、信徒代表として明主様にお喜び頂ける教会づくりを皆様とともに

辻井 健蔵

〈滋賀教会信徒代表〉

昨年中は、常駐される先生がおられない中ですが、教会の祭典やご奉仕や諸々の活動にご参加いただき、有難う御座いました。

お陰様で、大過無く無事に、諸行事を遂行させて頂いたことが出来ました。有難う御座いました。本年も感謝祭は教会長先生がおられない中での祭典にな

りますが、皆様のご理解とご協力のご奉仕を頂いての祭典になりますので、宜しくお願ひ致します。

さて、今年は、昭和百年、戦後八十年、阪神大震災から三十年となり、大きな節目の年となります。太平洋戦争では一般国民八百万人、軍人二百三十万人、合わせて三百十万人の尊い命が失われました。

この様に多くの人々の犠牲があつて、今の私たちが平和に暮らせる事の感謝とご供養を忘れてはならないと思ひます。また、阪神淡路大震災では、六四三二名の方々がなくなりました。そして、昨

年の元日には、能登半島地震があり、多くの犠牲者が出ました。その他にも各地での地震や風水害が多く発生し、亡くなられた方々がおられます。戦争や災害で亡くなられました方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。そしてまだ多くの人々が避難生活をしておられます。今、こうして参拝が許され、御光を頂

く明主様のみ弟子として、大きな御守護の中で暮らしている事に心より感謝を申し上げます。

日々を無事に過ごさせて頂いていることが決して当たり前ではなく、神様やご先祖様や家族や縁ある社会の人々の、大きな御守護と協力を頂

く中で暮らさせて頂いていることを決して忘れる事無く、その御守護とご恩にお応えさせて頂くべく、明主様信仰者として、参拝・浄霊・奉仕の正道を皆様とご一緒に、感謝と明るい笑顔とともに歩ませて頂き、救い主・明主様にお喜び頂ける滋賀教会となりま

すように、精進を重ねて参りましょう。

(令和七年一月)

教団 人事異動の

お知らせ

令和七年三月一日付

山田 友子

富士宮光導所責任者

就任

以上となります

トピックス

東京教会発 子ども食堂開催！ 教団初の試み

教団の取り組みでは初めてとなる子ども食堂。その第一回を終えて、 こども食堂運営委員会の境和之氏より報告がありました。

第一回子ども食堂を終えて

二月二十二日(土) 無事に開催することが出来、まずは一安心、ありがとうございました。

告知チラシ五千枚ポストインと世田谷区掲示板九十一箇所の掲示で信徒関係者を除き四組十名の親子(内一組二名は当日キャンセル)、一般のボランティア二名と一名の見学者の参加でなんとか様になる、初回としては上々の船出となりました。反省点：改善点数多くあれど、謙虚ささえ失わなければ半年後には軌道に乗るものと、淡い期待を抱いています。また思いもよらぬ嬉しい副産物も多くあり、最近の世知辛い教団状況のなかで、その晩は久々の幸福感のなかで眠りに着くことができました。



当日は開催をPRする看板が正面入口に掲げられた



この日はカレーライスとシフォンケーキ



世田谷区の承認を受けて区内の掲示板に貼られた告知チラシ (上段右から2枚目)

理想と現実の狭間で折り合いをつけながらも、私たちが掲げた『こどもの未来の健康を守るために』『無農薬食材にとことんこだわった』、このことを肝に銘じながら謙虚に運営していきたいと思えます。この子ども食堂が起点となり外に向けての『別の活動』が芽生えカタチとなり、教会がたえず一般の方も集う場となり、分母を増やしながらその中で少しでも明主様の教えに興味を持つてくれる方が生まれてくることを願っています。



食事を楽しむ親子 (プライバシー保護のため一部加工してあります。)

令和七年 二月二十五日 境 (抜粋)

「財務体質の改善」問題は専門チームに任せるとし『外に向けての活動』は今までのように教団の指示待ちとせず、「我々信徒のチカラを始めましょう！」とお酒の席で意気投合しました。

三ヶ月前に明らかとなった信徒数の年齢別構成比率を目的の当たりにした衝撃から、居ても立っても居られない切実な危機感と、教団に蔓延する『外に対する活動』への諦め感への反省を元に、なにご効果的・現実的であるか？を探るなかで「浄霊でもなく霊界の仕組みでもなく、自然農法を前面に押し出す」という意見が主流を占めました。

私が個人的に抱く計画のなかに、東京教会から五十キロ圏内に自然農法を実践する圃場を開設する、というものがありますが、それには少し時間がかかりそうです。



事前に配布や掲示が行われた告知チラシ

①東京教会が持つ物理的な強み、②社会の風潮、③ポテンシャル高いボランティア精神、などを考えた上で、無農薬食材に出来るだけこだわった子ども食堂の開設が良いのでは？という

結論に至りました。単なる社会貢献・貧困対策のみならず『食の安全』に関心高い親子の囲い込みで、その後計画する自然農法関連映画の試写会や講演会への展開にも弾みをつけたいと考えています。

このような経緯から子ども食堂のテスト開催を実施する運びとなりました。その後、市民権を得て社会福祉協議会への登録を目指し定期開催につなげていきます。

なにせ初めての経験故「とりあえずやってみよう、ダメなところは改善していこう」というトライ＆エラーの精神で臨みます。みなさまにおかれましてもその趣旨をご理解の上、ご賛同頂きますようお願い申し上げます。また大変恐縮ですが、その運営にはマンパワーであるボランティアの方と運営資金が必要となります。無理のない範囲で協力頂きますようお願いいたします。

最後に千差万別の子ども食堂の実態を知れば知るほど、分かれれば分かる程、しっかりと『立ち位置』の模索と確立が大切で、ましてや宗教団体が運営する子ども食堂となりますと、それだけで世間からはうがった見方をされることは避けられない状況の中では余計に固い意志とその考えの統一が必要となります。

「教えの糧をつなげるために」も、常識ある救いの光らしい子ども食堂を創り上げる気持で臨みます。人生の中で人には必ず神様にすがりたい時が何度かおとずれます。そのときこそ『浄霊・霊界の仕組み』の出番となり救いとなります。そのタイミングを逃さぬように日頃からの自然と湧き上がる人間関係の構築が大切です。

この活動が上手くいくかどうかはわかりませんが、それでも今日私はリンゴの木を植えるの精神で取り組みます。

令和六年十二月 境

東京教会信徒のみなさまへ「教えの糧をつなぐために」

こども食堂開設にあたり、東京教会信徒に向けて趣意書が配布されました。内容は左記の通り。

こども食堂趣意書

ただいま教団には、教えの糧をつなぐために、先送りや許されない、乗り越えなければならぬ大きな壁が二つあります。「教団の財務体質の改善」ともう一つは「外に向けての活動の開始」です。教団の成長と衰退を時系列で調べますと、本来は二十年程前に着手せねばならなかった問題でしたが、手が付けられず仕舞いでした。

「財務体質の改善」問題は専門チームに任せるとし『外に向けての活動』は今までのように教団の指示待ちとせず、「我々信徒のチカラを始めましょう！」とお酒の席で意気投合しました。

三ヶ月前に明らかとなった信徒数の年齢別構成比率を目的の当たりにした衝撃から、居ても立っても居られない切実な危機感と、教団に蔓延する『外に対する活動』への諦め感への反省を元に、なにご効果的・現実的であるか？を探るなかで「浄霊でもなく霊界の仕組みでもなく、自然農法を前面に押し出す」という意見が主流を占めました。

私が個人的に抱く計画のなかに、東京教会から五十キロ圏内に自然農法を実践する圃場を開設する、というものがありますが、それには少し時間がかかりそうです。